



赤ふん坊やの

地域ケア最前線!

～病院と地域のかかわりを学ぶ旅～

16 兵庫県明石市

譜久山剛 (医療法人社団医仁会ふくやま病院 理事長)

瀬戸内海に面した兵庫県南部・明石市では、このたび地域に開かれた、ただ単に医療を提供するだけではない病院がオープンしました! 連載第16回目の今回は、コミュニティの中で病院がどこまで地域に溶け込めるかを追究し、スタッフ・地域の総意として「また来てね」と言える病院を目指している、医療法人社団医仁会ふくやま病院の取り組みを紹介するね! 地域に開かれた病院の構想を打ち出した、譜久山剛理事長にお話を聞きました!

【何が問題だった?】

病院の新築移転
地域とのかかわりの少なさ

【何をした?】

地域に開かれた病院の新築
コミュニティへの場の提供

「また来てね」と言える病院を目指して

坊や 譜久山先生、こんにちは! 明石市って、明石海峡大橋のかかる瀬戸内海がとっても印象的なまちだね~! そして、たこ焼きのルーツと言われる明石焼きが有名だよ!! 先生はやっぱり、たこ焼き屋で一発当てるために、明石に来たんでしょ?

譜久山 「病院」の取材でしたよね……? (汗) 私はもともと明石の出身で、父は地元の開業医でした。国語、日本史、英語好きの、完全に文系の頭でしたが、誰かが後を継がないかと思ひ、医学部を目指しました。ずっと明石で育ったので、大学ぐらいは遠くへ行ってしまうと、長崎大学に進学したんです。在学中に五島列島に行くことがあったんですが、そこで……

坊や タコの旨さを知った、と。

譜久山 違います(汗) 島民の楽しみであるイカの塩辛を食すことを、たとえ高血圧患者であっても完全否定しない医療が展開されていたんです。生活スタイルを含めて地域を丸ごと診る視点に触れたことは、今思えば自分の源流なのかもしれません。その後神戸大学の消化器外科医局に所属して研鑽を積んでいましたが、父が病に倒れたことをきっかけに、次第に実家の病院へも関わるようになりました。そんな折、病院の老朽化と建て直し

という課題が浮上します。既存の病院の近くで土地を探しましたが見つからず、2.6km離れたところに建てることになりました。そうすると、患者層も変わってしまいますし、その地域とのつながりもありません。心機一転、新たな地域で自分たちの病院を始めるつもりで、地域の求めるものを提供したい、地域に溶け込みたいと思い、自分たちにできることを探りました。まず、院内でもワークショップを開き、どのような病院にしたいのか、職員で話し合いました。その結果、目指す病院像として……
坊や たこ焼き屋のある病院が浮上したと。

譜久山 全然違います※ かかりつけ医の延長にあるちょっと安心な病院、保険証なしで足しげく通ってもらえる病院、「また来てね」と言える病院、が浮上したんです。病院なのに「また来てね」って、不謹慎な気もしますが、それほど住民のみなさんの生活に近い当たり前の場所として、地域に溶け込んでいきたいという思いを、「また来てね」に託したつもりです。

坊や 「らっしゃい!!」の方が、たこ焼き屋っぽいけどね。

譜久山 気持ち悪いわそんな病院(^_^; 実際に何をしていたかという、まずは地域に出て、地域活動をやる39団体に、どんな場所になるといいか、ヒアリングを行いました。その結果、まちなかには活動や発表の場を

《地域の概要》
兵庫県・明石市

人口:295,000人(高齢化率26%)
面積:49km²(人口密度6,000人/km²)
日本の標準時子午線上に位置し、瀬戸内海と世界最長のつり橋「明石海峡大橋」が有名な町。明石鯛、明石タコなどの魚介類が名物で、たこ焼きのルーツとなったとも言われる明石焼きなど、食の町としても知られている。



赤ふん坊や

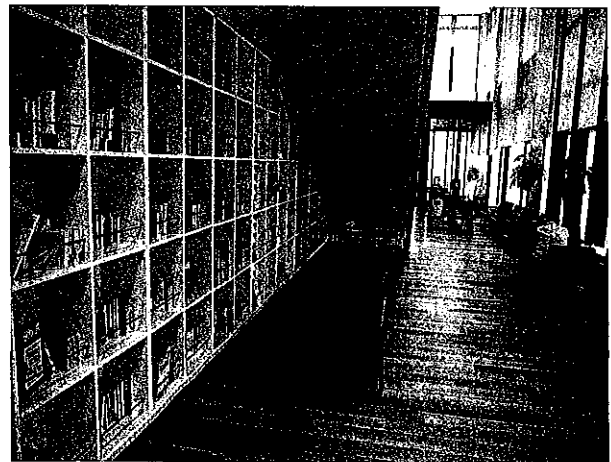
福井県高浜町のマスコットキャラクター、昭和63年生まれの元祖ご当地キャラにして、永遠の6歳。住民一行政一医療の協働の象徴として地域医療たかはまモデルを支える立役者。

求めている団体が多いことがわかったんです。そこで、病院の中にコミュニティホールをつくり、地域の方に開放したんです。集まる場所として、趣味の発表の場所として、次第にコミュニティホールは地域に近いものになってきています。一方、入院患者さんの求めるものは、闘病中であっても、普段の生活らしい生活や、楽しい生活なんです。そこで、1階のホールや病棟に本棚を設置し、患者さんでも地域の住民さんでも、自由に本を読むようにしたんです。本って、個人で楽しむものなんですけど、人とつながれるものだと感じています。

坊や 実際に、自慢の病院を見せていただきました！
先生、本当に、たこ焼き屋はないんですね……(ガクッシ)
譜久山 ないってば(笑) それより、本棚は見てもらいました？

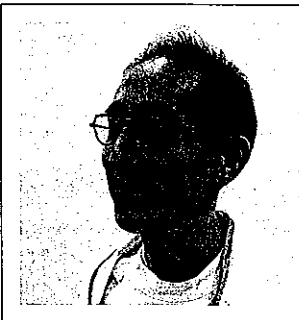
坊や はい！ 1階のホールは吹き抜けになって、大きく広い風の抜ける空間に本棚が並べられていました。病棟の本棚も、落ち着いて読書を楽しめるように工夫さ

れていました。コミュニティホールも、パーティションで区切れる、自由自在の空間です！ 病棟の詰所の敷居をあいまいにするなど、いたるところに医療と地域が近く感じられる工夫がちりばめられていました♪ 先



解放感抜群のホールにある本棚。椅子にも先生のこだわりがあふれていました～☆

Profile



譜久山剛(ふくやま・つよし)
医療法人社団医仁会ふくやま病院・理事長

1970年、神戸市灘区生まれ。明石市育ち。長崎大学を卒業、神戸大学第一外科に入局、兵庫県立循環器病センター、大阪府済生会中津病院、神戸医療センターを経て、父が倒れたために神戸大学大学院を中退し1999年から譜久山病院へ、消化器外科医としてより、まち医者として明石のまちのお役に立つ活動を目指している。最近のマイブームは旧病院近くにある自宅から、移転した新病院への自転車通勤。まちがよく見える。



病院の前で譜久山先生と。たこ焼き、食べたかったなあ……☆

生、どうしてここまで病院と地域との距離を気にしたんですか？

譜久山 病院の内外を結ぶことで、われわれ専門職ではなかなかケアしきれない生活の部分において、教えたい人と教えてほしい人、つまりケアしたい人とケアを受けたい人が出会う、そんな場を提供することができます。すると、相乗効果的に生活と医療の距離が近くなり、地域全体に安心が根付くと考えているのです。

空間がクローズドか、オープンか

坊や 先生が地域の中で病院を思うように機能させるために、工夫したことや気をつけたことってあるの？

譜久山 そうですね、ソフト面では、人材が循環できる仕組みに気を配りました。たとえば、当院には患者さんのお話をお聞きする傾聴ボランティアさんがいるのですが、人手不足にならないように、病院にも地域にも精通したOBスタッフなどがその役を持ち回れるようなシステムを用意しています。一方ハード面では、病院設計の際に、ここはクローズドな空間なのか、オープンな空間なのかという、空間の分け方に留意しましたね。そこには、人と人とのかわりかどのように行われるか、つまり、スタッフに話しかけやすくなるにはどのような空間が望ましいか、などに配慮したつもりです。

坊や なるほど、確かに、たこ焼き屋さんがいづ開いていつ閉まってるかがはっきりしてないと、お客さんも来にくいもんね！

譜久山 そういう話じゃないんだけどな……(汗)

坊や じゃあ、地域に開かれた病院を運営していく上で、難しいと感じた点はどんなことですか？

譜久山 暖気が2階に上がって1階が寒い吹き抜けの空調には、悩まされ続けています(笑) それより、やはりまだ医者は構えられているんだな～と感ずることがあります。ヒアリングを参考に開院したおかげで、地域に溶け込みだしていると感じていたのですが、先日地域の草むしりに参加したら、地域の皆さんから「そんな！先生が参加するなんて」と、遠慮されてしまったことがあって、まだまだ地域の一員になっていないな～と感じた次第です。地域のお祭りや新年会には呼ばれるんですけどね(笑)

「場」は後からつくれない

坊や この病院を開いて、地域には実際にどんな効果があったの？

譜久山 まだオープンして間もなく、数字で変化を表せる部分はないですが、まず何より、地域の人が生活の中で、例えばホールに置いている新聞を読み、病院に立ち寄ってくれるようになりました。そして、スタッフが患者さんや地域の人に関わりやすくなったようにも感じています。それから、地域の人だけでなく、大学や企業とのコラボレーションが生まれています。それもこれも、やはりこの地域に開かれた病院という「場」があったからだと考えています。「場」は後からつくれませんから、その点ではこの病院をつくる時から大切にしてきた思いが成果を出していると感じている次第です。

坊や うう……(涙)

譜久山 ど、どうしたの！？

坊や 後からつくれないんだったら、どうしてたこ焼き屋をつくらなかったんだよう!!! (本気泣き)

譜久山 坊や、お腹すいてるんだね……よしよし、後でおいしい明石焼きのお店に連れてってあげようね。

坊や じゃあ、先生の病院に今後の展望や課題はありますか？(ケロツ)

譜久山 (現金なヤツ^^;) この5月に当初から構想していた緩和ケア病棟をオープンしました。この病院の近くに兵庫県立がんセンターがありますが、早期がんから対象にして、がん治療の連携を図りたいと思っています。それから、コミュニティホールについては、グループの

活動を患者さんや地域の皆さんへよりオープンにわかりやすくして、新たなメンバーを獲得するために、「まちの時間割」、つまり、どの団体がいつ何をしているかを集約し公表することを検討しています。

医療と生活を対等で近いものに

坊や では最後に、病院の立場で地域包括ケアに取り組んでいこうと関心を寄せる読者に向けて、メッセージをお願いします！

譜久山 病院では医療が最優先課題のように考えられることが多いですが、あくまで医療は生活の中にあり、医療が生活に関わる時間や範囲は限られています。医療と生活、医者と患者の観点で、それぞれを対等で近いものにすべきでしょうね。そのためには、自分のダメっぷりを提示するというか、医者も一般の人とそんなに変わらないことを示すのも一つの手かと思います。生活スタイルを否定するのではなく、生活そのもののアドバイスできる医療者が増えるといいですね。皆さん、そんなふくやま病院で一緒に働いてくれる仲間を、随時募集しておりますので♡



広々としたコミュニティホールは、さまざまな用途に使えます♡ ちょうど、玄関と病棟との間にありました。

坊や じゃあ、院内たこ焼き屋はボクに決定だね☆ よろしくね～！

譜久山 そ、そうきたか……(汗)

坊や 先生、今日はボクの就職の話までいただきありがとうございました！ 次回は、石川県・加賀市の河合篤史先生にお話を聞いて来ます！お楽しみに～☆☆☆



赤ふん坊やがあなたのまちにやってくる!! ～地域ケア事例大募集!～

全国各地で地域ケアに取り組んでいらっしゃる皆さん！ 赤ふん坊やにあなたの活動を紹介してもらいませんか？ 地域のあらゆる問題(生活習慣が悪い、健診を受けない、住民の理解が乏しい、多職種や行政と連携できない、etc)に対して、何かしら活動されていれば、所属や職種(病院/診療所/住民(団体)/行政/医療/介護……)にかかわらず、どなたでもOKです！ 自薦/他薦は問いません。お一人でも多くのご連絡、お待ちしております!!

連絡先：井階 友貴(福井大学医学部地域プライマリケア講座) ✉ tomoki@ikaike.jp